

「新しい年への励ましのみことば」

ピリピ4：10-13

堀田修一 23・1・1

「乏しいからこう言うのではありません。私は、どんな境遇にあっても満足することを学びました。私は、貧しくあることも知っており、富むことも知っています。満ち足りることにも、富むことにも乏しいことにも、ありとあらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。私を強くしてくださる方によって、私はどんなことでもできるのです。」：11-13。神が支配されるこの新しい年も、喜び、嬉しい事、つらい事、悲しい事が起こることでしょう。本日のみことばは、人生の秘訣を教える重要なみことばです。

I 今年、何が起きるかという境遇を私たちは選ぶことはできませんが、その境遇を、どのように「受け止めるか」を主に頼り選ぶことができます。「乏しいからこう言うのではありません。私は、どんな境遇にあっても満足することを学びました。…ありとあらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。私を強くしてくださる方（主）によって、私はどんなことでも（あらゆる境遇への正しい対処が）できるのです」：11-13。※聖書の正しい解釈は文脈から分かります。背景（パウロは獄中）からも理解が増す。

1. 私たちは、自分の力で境遇、起こる出来事を思い通りにコントロールすることはできません。しかし、境遇、起こる出来事に対する対処、受け止め方、考え方は主に頼り自分で選ぶことができます。人生で最も大切な事の一つは、試練、境遇、問題への「対処、考え方、捉え方、受け止め方、応答」を主に頼って実践していく事です。同じ事が起こっても、対処、受け止め方、捉え方、考え方は、人それぞれです。マイナスに捕らえる人、プラスに考える人。ある人は、他の人を恨み、ねたみ、憎しみ、後悔、自分を責め続け、破滅の人生へ。ある人は、試練を通して、主に出会い、主に愛され赦され、人と自分を赦す人生へ、あらゆる辛い境遇から大切な事を学び、主の姿、品性に成長していく人生に真の光である主は導いて下さいます。本日のみことばは、その恵みの秘訣を教えている素晴らしいみことばです。主は、私たちが、どんなに苦しい境遇に置かれても、それらに正しい対処ができるように助けて下さいます。

2. 私たちは皆、人生の中で、辛い苦しみに出会います。ある人は、その苦しみがもとで、恨みを抱くようになり、ある人は、他の人より多くの苦しみがあるのに、それらの苦しみを通して、神に出会い、神から深いことを教えられて、感謝の心を持つようになります。「苦しみにあったことは 私にとって幸せでした。それにより 私はあなたのおきて（みことば）を学びました」詩篇119：71。境遇は選べなくても、それに対してどんな選択、応答をもって応えるかで、全く違う人生になります。ある人は年々と恨みがましく、気難しくなり、ある人は、年齢を重ねるにつれ、喜び、感謝が満ちてくる。それは、恨みっぽくなる人の人生が、喜び、感謝の増す人の人生よりも、恵まれていなかったということではありません。その人の内面でなされた選択、応答、捉え方、考え方が違ったということです。キリスト者の特権は、人生に起こる問題、苦しみ、課題への大切な対処、応答、捉え方を自分の考え方・視点ではなく、「私を強くし

てくださる」主と共に対処できる恵みです。

3. 「この世と調子を合わせてはいけません。むしろ、心（原語：思考、理解力、分別、考え方、思い）を新たにすることで、自分を変えていただきなさい（原語：変えられ続けなさい）」ローマ12：2。キリスト者とは、心と思い、考え方が、御聖霊とみことばにより変えられ続け、問題、課題、悩み事を世的（神様抜きの手探）ではなく、聖書的に考え、捉え、受け取り、聖書的な物の見方（すべてのことを神が支配し、ご計画と意味と御目的を持っておられるとう正しい考え、理解）をする恵みが与えられる人々です。

Ⅱ 思い煩うとは、環境、境遇に支配されている事。どんなにつらく、追い込まれた中でも、私たちが、私たちに強めてくださる主に頼るなら、主は、正しい視点、考え方、理解、捉え方を与え、その試練の中でも、主の恵みを数えて感謝する思いを与え、その試練にも神の御手の中で意味があると理解する事（人間には、すべては理解できなくても、最善をなされる神に委ねること）を助けて下さる。聖書的に考える、神の視点で見る、考え捉えることは、信仰の本質です。信仰の人とは、自分が倒され、打ちのめされそうなときも、共におられる主に頼り、自分を強くして下さる主の視点で問題や出来事を見直し、考える人のこと。私たちのすべての問題は、私たちが、主と共に考えたり、神の前に物事に向き合うことをしないで、孤独な独り相撲をし、感情的になり、過敏症、過敏な反応に支配されてしまうことに原因がある。神がすべてを支配し支えて下さること、神が互いに支え合う人々をそばに置かれていることを忘れ、自分ひとりですべてを抱え込み過ぎていることに問題がある。それでは、心も体も弱り果てる。主ではなく、自分の思いに捕らえられると、私たちは、分別を失い、明確に考えることができなくなる。主から離れると、私たちは、自分の心と思いを自分で刺激し、問題を自分で悪化させ、自分の感情をひねくれさせてしまう。※証し。自分で自分の問題を実際よりも、もっと大きく感じさせてしまう。「人生で大切な事は、起きている問題以上に、私たちが、その問題をどう考え、それにどう対処するかである」。

Ⅲ 私たちの幸いの度合い、満足度を決めるのは、境遇よりも、私たちが、主に頼り、それらをどう考え、捉え、受け止め、応答し、対処したかである。最後に聖書全体からの人生への正しい考え方と励ましのみことばを述べたい。

1. 周囲の情勢は絶えず変化します。今年も。ですから、それらに依存したり、振り回されてはいけません。変化しない不動のお方に信仰の目を向けましょう。「信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。この方は、ご自分の前に置かれた喜び（神を喜ぶ喜びと御自身の十字架の御業により人々が救われる喜び）のために、辱めをものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されたのです」ヘブル12：2。※証し。

2. 最も大切な事は、三位一体の神と私たちの深い親しい関係です。常に罪を認め神に立ち返る関係です。神と親しい関係の霊的なパイプから愛、喜び、平安、希望、苦しい境遇に対処する力が私たちに注がれます。神からの先行的愛、恵みが与えられると私たちは、神への感謝と賛美と神御自身を喜ぶ喜びが生まれます。そして、心からの主の祈りが生まれます。「御名があがめられますように」マタイ6：9。

3. 神は偉大で愛の天の父として私たちを常に見守っておられます。神はすべてを支配しておられ神の計画にないことは一つも身に起きません。偶然の出来事はないのです。すべてに神の意味がある。私たちに理解できないことの中にも。私たちの頭の毛さえも、すべて数えられています。神は私たちのすべての理解者。それを決して忘れてはなりません。「主は とこしえに統べ治められる」詩篇 146：10。「雀の一羽でさえ、あなたがたの父の許し（支配）なしに地に落ちることはありません。あなたがたの頭の毛さえも、すべて数えられています」マタイ10：29, 30。
4. 人生における出来事すべてに、何らかの神の愛といつくしみと深い意味が隠されている。「隠されていることは、私たちの神、主のものである」申命記29：29。私たちには理解できないことが起こっても、人知をはるかに超えた神が、神の時に最善を行われる事を信頼するのが私たちの分、私たちの信仰である。「わたしの思いは、あなたがたの思いと異なり、あなたがたの道は、わたしの道と異なるからだ」イザヤ55：8。「神を愛する人たち、すなわち神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことが働いて益（主の御姿への成長、神の深い計画が成る）となる」ローマ8：28。
5. 勇気と力と励ましを与えるみことば。「恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろぐな。わたしはあなたの神だから。わたしはあなたを強くし、あなたを助け、…あなたを守る」イザヤ41：10